

平成 22 年 4 月 14 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 22 年 第 4 回講話

論語から今を見る

本日の論語は、公治長第五 1～6 です。

【一】 子 公治長 を謂う。妻あわすべきなり。繯綫の中に在りと雖も、その罪に非ざるなりと。其の子を以て之に妻あわす。子 南容を謂う。邦道あるときは靡られず。邦道無きときは刑戮に免ると。其の兄の子を以て、之に妻あわす。

自分の娘を嫁にやる時の孔子の気持ち、ここに書いてあります。今の時代と照らし合わせて考えるとよいと思います。

孔子が公治長について批評をしました。

「自分の娘を嫁にやってもよい。無実の罪で牢獄に繋がっていたけれども、見所がある人間だから、自分の娘を嫁にやろう」

孔子が南容について言いました。

「南容はその国に道徳が行き渡っていて秩序がきちんとしている時には、それなりに登用されるし、国が乱れている時には、逮捕されて罰せられることはないだろう。一生間違いないから、自分の兄の娘を嫁にやってもよかろう」

孔子もやはり人の親なのだと思います。

無実の罪というのを申しますと、公治長という人は鳥の言葉が分かったというのです。公治長がある日、衛から魯に帰ろうとして山を越えるとき、鳥が「この先の谷川に人の死骸があるぞ。十分に腐敗しているから一緒に食べに行こう」と話しているのを聞きました。里に下りてゆくと、息子が帰ってこないと嘆いている老婆に会いました。長は、鳥が話していたのを思い出して、それを老婆に話しました。そこで老婆は谷川に行ってみると、果たして死骸は我が子だったのです。老婆はそのことを村役場に行くと、役人は「鳥の言葉を分かるはずがない。きっと犯人に違いない」と長を捕らえ、牢に入れてしまいました。

長が獄に入れられて 60 日目の朝、獄の窓に雀たちが来て話しをしています。「荷馬車がひっくり返って、積んであった物がこぼれている。人間が拾ったけれど、まだいっぱい残っているから啄ばみに行こう。」これを獄吏に話すと、まさにその通りでした。公治長が鳥の言葉を解するのかと何度か試験をしてみると、すべて公治長の言う通りだったので、公治長は放免されたという話です。

公治長は特別な能力を持っていて、どう化けるか分からないから娘を嫁にやろうということだったのだと思います。娘に対しては、世間の基準と少し違って、ちょっと冒険をしているという感じがします。

無実の罪というのは、世の中に沢山あるのだらうと思います。足利事件は記憶に新しいところです。有罪と言渡されて、20 年、30 年経ってから、実は無実でしたというのではたまったものではない。その点、今回の時効がなくなるという動きは、非常に良いことだと思います。当然死刑となるような、凶悪な事件でも 25 年経つと時効です。それが今回、時効が無くなったことで、人を殺した人間をずっと追いかけられるのは悪いことではないと感じます。

犯罪を犯して心の中に突き刺さった棘は、ずっとチクチクと突き刺さるだらうと思います。又、「綸言（りんげん）汗の如し」と申します。天子の言葉は元には戻らないということです。天子に限らず、ついうっかり言ってしまった言葉というのは、あとあと大変な問題を引き起こします。民主党の鳩山さんが普天間基地問題で喋った軽い発言が、今、本人を苦しめています。鳩山さんだけでなく、日本の国が苦しんでいるのだから、これは大変なことだと思います。

【二】 し しせん い くんし 子 子 賤を謂う。君子なるかな、 かくのごと ひと ろ くんししゃな 若 き人。魯に君子者無かりせば、 こ いずく 斯れ 焉んぞ斯れを取らんと。

孔子が子賤を評して言いました。

「子賤は立派な人間だ。しかしこの立派な人間はどうやって出来たのだらう。魯という国に君子はいないというけれども、子賤は誰をお手本にしたのだらう。」

魯の国には素晴らしい人物が沢山いる。眼力の無い人間ばかりだから、なかなか素晴らしい人物を見抜くことが出来ないのではないかと、という言い方をしています。

これも日本の国で置き換えて考えてみれば、狭い世界の中ではそれぞれ優秀な人物がも

てはやされるけれども、その世界から一步出てみると叩かれることが沢山あると思います。鳩山さんは民主党の中では総理総裁ですから、人物と言われているわけです。けれども国民から見ると、立派な人物とは言えません。民主党は今回の調査で支持率が危険水域の20%台まで落ちました。

この文章を「政権与党に人物無かりせば・・・」と読み換えて考えましょう。

第一の人物の鳩山さんは、自分の軽はずみな発言で苦しんでいます。おそらくどうやって幕引きをしようかと頭の中にあると思いますが、自分が議員を引退すれば多分逮捕されるだろうし、母親も逮捕されるかもしれないということが目に見えているから、そう簡単には議員を降りることはないでしょう。内閣総理大臣は降りても、議員だけはしがみついているように思っています。人物の二人目、小沢さんは議員を引退したら自分の師匠が捕まっていますから、何が何でも議員辞職はしないだろうと思います。証拠不十分で逮捕されなかった上に、「検察が私の無実を証明してくれた」という発言をして、国民から総スカンをくらっているわけです。そういう人でありながら、田中角栄がヤミ将軍として次の総理大臣を決める力を持っていたのだから、自分も次の首相を決めてやろうと気持ちが色濃く見えます。次の首相と目される菅さんは、棚ぼたをずっと待っている。あと目立つのは仙谷さんと前原さんです。仙石さんは反小沢の発言を意識して繰り返しています。仙谷さんが菅さんと次の総理大臣の座を争って、水面下で応酬をしているように見えます。前原さんは、次は無理だと思っていますから、地盤固めをしているような発言です。頭の中に、次の総理、その次の総理を見据えていると、それぞれの人が発言しているものの裏側にある本人の心情が透けて見えます。

このように論語を現代の実情に即して考えて、自分なりの仮説を作ってみると実におもしろいです。今の時代は、一日経つと事実がどんどん進みます。多分こういう事だろうと仮説を立てておくと、その仮説にしたがってそれぞれの人物が踊っているならば楽しくなりますし、仮説が間違えた時には、どこで間違えたのか考えれば原因が見えてきます。これは日本の国の政権与党だけでなく、自分が所属している組織の中や友人知人との関係で眺めても、置き換えが十分きくと思います。

【三】 しこうと 子貢問いて曰く、いわ 賜や何如と。し 子曰く、いかに 女は器なりと。し 曰く、なんじ 何の器ぞやと。き
い 曰く、なん 瑚璉なりと。き

子貢が、「私はどの程度の力量の人間ですか」と孔子に尋ねました。

孔子が「お前は器である」と言いました。

子貢が、「では、何の器ですか」と聞きました。

孔子が「瑚璉である」と答えました。

子貢は、孔子が「お前は君子だね」と言ってくれるものだと思って聞いたわけです。そうしたら「お前は器だよ（使われる側の人間だ）」と言われたので、カチンと来て、「では、私は何の器物ですか」と聞いています。瑚璉とは、おたまやでお祭りをする時にお供えを盛る器物で最高級の器物ですから、「お前は、使われる側の人間ではトップクラスである。実に素晴らしい力を持っている」と孔子が子貢にリップサービスしたのです。孔子が諸国を回って活動するには、資金繰りをしたり衣食住について調達してくれる弟子がいなければなりません。子貢はそういう能力のある弟子でしたから、子貢がいなくなると孔子は困るわけです。ですからここは、孔子が弟子の批評をしているけれども、弟子に対して持ち上げたり、すかしたり、落したりという有り様が目に見えるような気がします。

自分自身の力量について、「お前は、こうだよ」と言ってくれる師匠がいるのは有難いことです。常に言葉に出して、私はどの程度の力量を持っているかと師匠に聞いて、師匠にこうだと言われるとホッとします。そういう師弟関係も悪くないと思います。そういう師匠が持てる、或いはそういう弟子が持てるの良いなと感じました。

【四】 ある いわ よう じん ねい 或ひと曰く、雍や仁なれども佞ならずと。しいわ いづく ねい もち ひと あた 子曰く、焉んぞ佞を用いん。人に禦こうきゅう もつるに口給を以てすれば、しばしばひと にく じん し いづく ねい もち 屢人に憎まる。その仁を知らず、焉んぞ佞を用いんと。

或る人が言うには、「仲弓は徳があるけれども弁舌は巧ではない」

孔子が答えて、「どうして弁舌が巧みな人間を用いようとするのだ。口に任せてものを言う人間を使えば、人様にたびたび憎まれるものだ。雍が仁者であるかどうか知らないが、口達者が何になるというのだ」

弁舌な巧みな人間を使うのは危ないと言っています。小沢さんがこれをよく感じればよいと思います。鳩山さんがよい例で、弁舌が巧みで口からでまかせでポンポンと喋ってしまう。そうすると後始末が大変です。小沢さんはもう少し違った人間を選んでおけば良かったと思っているかもしれません。

【五】 し しつちようかい つか こた いわ われ こ こ いま しん 子漆雕開をして仕えしめんとす。対えて曰く、吾斯れを之れ未だ信ずることあた能わずと。子説ぶ。し よるこ

孔子が子若という弟子に、「もうそろそろどこかの国で、しかるべき地位に就いたら良からう。そういう推薦をしようじゃないか」と言いました。

子若が「私はまだ修行中の身で、先生が教えてくださる道理・真理を深く悟ってはいません。もう少し先生のお傍で勉強をしたいので、仕官することはご容赦願いたい」と答えました。それを聞いて孔子が、小さな成功に甘んじないことを説(よろこ)んだという話です。

小沢さんに「そろそろ総理大臣をやったらどうか」と水を向けられて、「私はまだ修行中の身ですから」と断るようであれば、鳩山さんもたいした人物になったでしょう。そう置き換えて読むと実におもしろい。

【六】 しいわ みちおこな子曰く、道行いわれずのんば、桴うみにうかりて海われに浮したがばん。我ものに従そわん者ゆうは、其しれ由ゆかと。子路し之ろをこらきて喜よぶ。子曰く、由しいわや勇ゆうを好ゆうむこと我このに過われぎたり。取すり材とる所は無からんと。

孔子は、私を用いようとする国がないというのは、何と嘆かわしい世の中だ。私を採用すればその国は素晴らしくなるではないかと思っているわけです。

孔子が言いました。

「私を採用する国がないので、筏に乗って海に浮かび、よその国に行こう。そういう時に、私と一緒にいきたいと言う者は、子路しかいないだろう」

中国の思想では、中華が真ん中にあり外の国は野蛮人の国という感覚です。筏で野蛮人の国まで行かれるわけがないので、或る程度ジョークが入っています。

子路はこれを聞いて、それほど私を見込んで下さっているのかと喜びました。

孔子が言いました。

「子路は勇氣は私以上にあるけれども、知恵が無い。海を渡る筏をどうやって作るのか。」

子路は蛮勇はあるけれども、知恵がないと言っています。

金子みすゞの詩

今日ご紹介するのは、『金子みすゞ 没後 70 年』(文藝別冊)という本です。

私は金子みすゞの詩が好きです。たまたま本屋さんで金子みすゞの詩を見て立ち読みし

て、文庫を買って読みましたら、矢も楯もたまらず金子みすゞの生まれた山口県の仙崎という所に家内と出かけました。今の時代、金子みすゞの詩を時々読んでみると心が癒されます。

金子みすゞは明治36年に生まれて、26歳に亡くなりました。自分の病氣と離婚に苦しみ、母親に子供を託して自殺しています。彼女の詩は世の中に散逸し長らく忘れられてしまっていたのですが、関係者の努力によって遺稿集が発掘されブームになりました。

レジュメに「私と小鳥と鈴と」と「繭とお墓」という詩をつけたので、ご覧下さい。疲れた時や気が重たい時に読むと、ホッとします。そういう詩をいくつか持っていると思います。これに触発されて、安岡正篤先生の「六中観」をポエムにしたいと思って、『陽明学のすすめ 人間学講話「安岡正篤・六中観」』で、「六中観の詩」を作りました。

恒例の質問

昨日一日、嘘をつかなかった方？

(・・・沢山手が拳がる)

出来るだけ嘘をつかない日々を過ごしていくと、良い循環で回ります。

昨日一日、良い日だったなと思う方？

(・・・沢山手が拳がる)

ちょっとでも良かったと思うことがあれば、嫌なものが全部飛んでしまう。良いことだけに目を向ければよいと私は考えています。

昨日一日で、有難うと言い、有難うと言われた方？

・・・はい、有難うございます。なかなか難しいですね。

では、有難うと言った方はどうでしょうか？

(・・・沢山手が拳がる)

なかなか有難うと言われるのは難しいと思います。

ほどほど

中斎塾フォーラムでは知らず知らずの間に、<ほどほどが良い>という考え方が沁みこんでくれるような話をさせて戴いています。

例えば生きていく上で、大きな仕事なり出来事なりが舞い込んだ時に、ほどほどにして

おくのが良い。自分から少し削って、お先にどうぞという姿勢くらいにしておいた方が、後で来る被害は少ないと思っています。無理矢理めいっばいとすると、後で必ず事故や問題が起きたりします。

転機

険しい山の頂上に大きな岩がある。転機というのは、その大きな岩がゴロゴロと転がり落ちる瞬間です。自分自身の人生を根っこから変えてしまうようなチャンスを転機と考えて戴ければ良いでしょう。胸に手を当てて考えてみると、あの時が転機だったと思うことは沢山あると思います。そしてこれからまだまだ色々な転機が来ます。しかしアンテナを張っていない、感受性を磨いていないと、今が転機・チャンスだと思えない。それが怖いのです。

柳生家の家訓をご存知ですか。チャンスにぶつかった時の捉え方です。普通の人は、「縁に出会って縁に気づかず」(目の前にチャンスが来ても気がつかない)。その次のランクになると、「縁に気づきて縁を活かせず」(今、目の前に来ているチャンスを何とかしなければと欲しているが、活かすことができない)。上のクラスになると、「袖触れ合う縁をも活かす」となります。

「袖触れ合う縁をも活かす」が、本日のテーマで書きました「女神の後ろ姿」です。人生に幸せを運んでくれる女神は、前から見ると、髪の毛が黒髪豊かです。その女神が向こうから歩いてくる。縁が繋がればよいなと思いつつ、すれ違う。すれ違って2,3歩して、振り返って手を差し伸べて掴もうと思っても、女神の後ろ髪は無いから掴めない。チャンスというものは前から来た時にしか掴めない、過ぎ去ってから追いかけるのは無理だという話です。

政治の世界で人生の転機を考えると、「立ち上がれ日本」という政党が誕生しました。高齢の政治家ばかりで、「たそがれ日本」とか「立ち枯れ日本」などと言われていますが、曾野綾子さんは好意的で、「70代は輝ける年代である。自分の人生を振り返って、作家として人間を観察し続けたけれども、70代ほど人間観察眼が冴え渡った年代はない。周りを見ていて、話しをしていて、その人の本音を感じることが出来る。その一番良い70代が結集しているのだから、さぞかし素晴らしい政党が出来るところとエールを送っています」と書いていました。70代の政治家が集って政党を作ったというのは、本人達にとっては最後の転機だと捉えてやっているといますから、注目しておきたいと思っています。

どう考えても民主党は末期症状が出ているし、自民党は立ち上がれない所にいるから、やはり第三局でしょう。一回、「ご破算で願いましては・・・」とならざるを得ないはずで、日本の国の中で小さなコップの中の争いをしている間に、世界はどんどん変わっています。世界から圧力が日本に来た時には、一気に変わると思っています。

平成 14 年、当時の柳沢金融担当大臣が「日本が経済破綻して I M F の管理下におかれた場合、どういう手を打つか」と聞かれて、答えたものがネバダレレポートです。それによると、消費税を 20% に引き上げる・公務員の総数、給料は 30% 以上カット・ボーナスは例外なくすべてカット・公務員の退職金は 100% カット・年金は一律 30% カット・課税最低限を引き下げ、年収 100 万円以上から徴税を行う・・・等々を実行するだろうと発表しています。それらが具体化されて始まるだろうと思います。

今回の予算を考えると、37 兆円の収入で 92 兆円使おうなどと、どう考えても頭が狂っているとしか考えられません。そして足りない分は、国債という名前の紙くずで調達して、へそくりを無理矢理持ってきたのが 11 兆円です。今、日本という国は考えられないことを平然としてやっています。諸外国から見たら、日本の信用はがた落ちです。今回、ギリシャに対してユーロ圏の 16 カ国が 3 兆円 8000 億の協調融資を合意しました。日本はこれからどんどん経済面で落ちていくと思います。更に、教育面が酷い状況ですから、落ちるのは早いと思います。

以前から申し上げているように、来年の後半から転げ落ちていくわけですが、我が身に降りかかってくると思っています。ですから会社経営の方には、今あるお客さんの中で、潰れない限り絶対に仕事を出し続けてくれるような人間関係が出来ている所を、しっかり固めるとよろしいと申し上げます。そこが存続している限り、たとえ収入が減っても会社が生き延びられるようなお客さんを大事にしなければいけません。来年の後半に向けて、本当に大事にしている会社とのがっちりした人間関係を作っておかないと、こちらだけ大切に思っていたのでは危ない。自分で自分の身を守るには、最低限 1 つ、上手くいけば 2 つ以上のユーザーを抱え込んでおく必要があるとお話をしています。

氣になっていること

今、氣になっていることは、国政がおかしくなって来ている代わりに、地方行政がおもしろくなっていると感じています。

大阪府もトップが変わって、おもしろいことを言い出しました。橋下知事は、大阪都構想なるものを打ち出して、堺を取り込んで大阪府ではなく大阪都として、20 くらいの行政

地域を作りたいと言っています。

国政から言うと、これは地方の反乱ということでしょうが、地方が活性化してきている証拠です。大阪以外でも、名古屋、東京では杉並区がおもしろいと思います。杉並区長の山田宏さんは、日本志民会議という政治団体の中心として活動を始めています。日本志民会議は、松下幸之助さんに政経塾を任された上甲さんという方が代表をしていますが、考え方と行動の仕方は注目しています。

このように地方で新しい芽がどんどん出てきています。共通しているものは、志と我が身を削るところです。山田さんも自分のお給料をバサッと削っていますし、名古屋の河村さんもそうしています。自分のお給料を半分、或いはそれ以上削って人様の注目を集める。そして具体的な政策をどんどん打ち出しています。ただ、自分達の身分や収入に関わるものについては、それぞれ地方の議員さんもかなり抵抗しているようです。そういう芽が出ている以上、こういった動きはどんどん広がると思います。その広がり具合が、地方が国政を包み込むのではないかと感じています。

今後、杉並区に追随する区が出てくると思いますし、関西で名古屋は突出したものになるかもしれませんが、これはやはり見続けなければなりません。大阪はアドバルーンだけ揚げて消えてしまう危険性がありますから、そこらへんも含めて注視しなければならないと思っています。まんざら日本も捨てたものではない、と感じます。最近、暗い話ばかりで明るい話題はないかと気にしていたところ、地方の議会で新しい芽が出てきたので、非常に良い動きだと思っています。

人間のお付き合いでも仕事の仕方でも、とにかく氣になったものがあったら掘り下げることです。掘り下げて、掘り下げていくと、必ず何かカチンとした鉾脈にぶつかると思います。鉾脈にぶつかって、考えられないくらいのお金が入ってくることが、商売をしていると一回はあると思います。そのお金をどのように使うかによって、その後の人生が変わってくると聞いています。

本日の講話は終了です。有難うございました。